

新潟県長岡地域振興局長賞

未来に残す国づくり

長岡市立南中学校

二年 佐藤 杏日花

平成二十三年七月に私の家のすぐそばを流れる柿川が大雨により氾濫した。

私の家は幸いにも被害はなかったが、家の前を通る道路が大人の膝くらいまで水につかたり、近所の民家や車も浸水し、ボートで救助される人もいた。私の家でもガス、水道がとまったりした。

しばらくして柿川放水路の工事が始まる。これは柿川だけでなく信濃川の氾濫も防ぐ大規模な工事でも今も工事は続いている。

ただ、この工事は信号が渡れなかったり、回り道をしなければならなかったり、大きな重機がじゃまだったり：いろいろと不便な点もある。私はこの工事には賛成だが、早く終わらせてほしいと思う。

しかし、この工事は公共工事で膨大な額、九十一億円もの私たちの税金が使われている。なぜ九十一億円もの税金を使ってまで工事をするのか。それは国がただやみくもにお金を使っているのではなく、私たちの生活に必要で暮らしやすい環境を整えるために使われるのだ。

税金でおこなわれる公共事業はほかにも港湾や道路、住宅や下水道の整備、公園、河川の堤防やダムなど社会経済活動

や国民生活、国土保障の基盤となる施設の整備など多岐にわたるとあった。

つまり、国と国民が協力してお金をだして私たちの暮らしを整えるための工事に不満を言ってはならないのだと思った。国は私たち国民の住みよい町をつくろうとお金を使い町を整備しているのだ。私たち国民の出したお金で長くて不便な工事しないでよと言う人も多くいるが、だれのために工事しているのかと考えれば、私たちのために工事してくれているのだ。だから私たちが不満や文句を言ってはならないのだ。

国も暮らしを整える工事だからといって大きく華美な橋をつくったりせず必要なところに必要な分のお金を使い、費用の抑制をし、効率的に整備を進める必要があると考えている。だから私たちも一人一人が税金を納め、国は必要ないところには税金を使わないと考えているのだから私たちも納める時にはしっかりと納める、というように国と国民で協力しあい、住みよい町、国をつくっていくことがなにより大切だと考える。

そして丈夫な橋や壊れない水道管を作り、今は住みよい、ではなく、未来も住みよい、国を作ってもらいたい。未来でも丈夫な事業を残せば天然資源もその分残されるし、税金も別のところで役立てられる。大切なのは、未来でも生活の中にある丈夫な事業を作っていくことだと考える。

だから私は、未来にも引き継がれる、安全で丈夫な町を作ってもらいたいから一人一人が納める税金をしっかりと納めるという国に在る者としての努めを果たし、町を、国を大切にしていこうと思う。